Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No. 207

2025 10.15（水）

12:15 ～ 12:55

12:15-12:20	◆発表者紹介
12:20-12:45	◆プレゼン
12:45-12:55	◆質疑応答

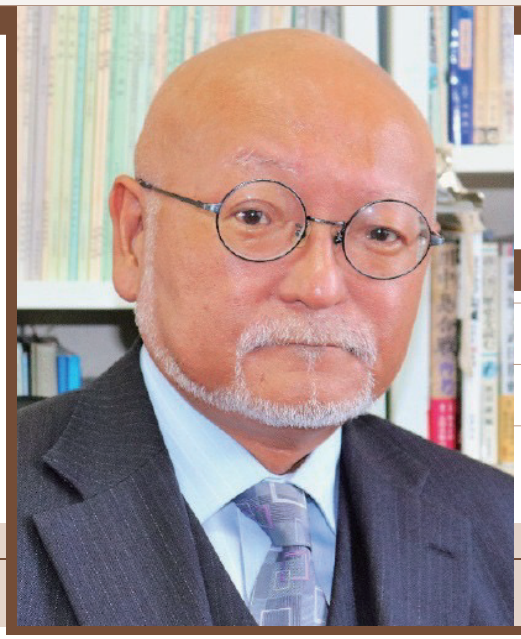
オンライン (Zoom)

登録はこちら

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_sLHpqpT1QQCqqQa2RsMh1A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

日本城郭の石垣の進化とその保存



Key Words

城　石垣　文化財　中世　近世

宮武 正登 教授

佐賀大学 地域学歴史文化研究センター

北海道北端の天塩町出身。國學院大學文学部史学科で中世史を学び、同大学院文学研究科日本史学専攻の修士課程を 1988 年に修了。在学中から城と城下町の研究を続け、文化庁の紹介により、豊臣秀吉の朝鮮出兵基地である名護屋城跡の保存整備と博物館開設のため、1990 年に佐賀県教育庁に奉職しました。以後、名護屋城博物館学芸員や吉野ヶ里遺跡の調査保存担当などを務め、2014 年から佐賀大学に転職し現在は地域学歴史文化研究センター教授を拝命しています。歴史学博士。代表著書は『肥前名護屋城の研究―中近世以降期の築城技法―』（吉川弘文館 2020）。熊本城・名古屋城・和歌山城・島原城等の保存会議の委員を歴任しました。

日本の城の特徴的な構成要素である「石垣」の進化について解説し、その伝統的技法の継承という文化財保護の観点から、熊本城の震災復興を例に将来的課題を考えていきます。織田信長による安土城築城が契機となって、近畿の先進的築城法を地方に波及させていった豊臣秀吉は、肥前名護屋城で最先端の石垣構築技術を採用し、以後の城郭土木の発展の方向性を決定付けました。その過程で創出された熊本城ですが、2016 年地震により多くの石垣が崩壊しました。その復元には構築当時の技法の忠実な再現が条件ですが、観光活用上の要請から現代工法による補強策の導入が検討され、歴史的遺産の保全の原則をめぐる議論が続いています。